

(参考様式5)

事業活用活性化計画目標評価報告書

計画主体名	計画主体コード	計画番号	計画期間	実施期間
宮崎県・西都市	450006	1	H20～H22	H20～H21
活性化計画の区域				
東平田地区（宮崎県 西都市）				

1 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値A	実測値B	達成率(%) B/A	備考
定住等の促進に資する農業用用排水施設等の機能の確保	10ha	10ha	100%	

(コメント)

農業用施設の整備により条件整備され、機能確保された農地が10haとなり、目標を達成することができた。

2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

事業メニュー名	事業内容及び事業量		事業実施主体
農業用用排水施設	軽量三面水路800×700 L=198.2m U型側溝300～500 L=1301.7m 集水樹・取付水路 1.0式		西都市
管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日
桑の木水利組合 堂免ため池水利組合	平成20年度	平成21年度	平成22年3月12日
事業の効果			

本地区は、西都市の南部の川原川沿いに広がる水田地帯であり、水稻を主に耕作が行われている。本地区の農業用排水路は土水路であり、排水阻害を引き起こし、大雨時には農地が冠水し耕作に支障を来しており、排水路の整備が早急の課題となっていた。

今回、現況土水路をコンクリート二次製品で整備することにより、浚渫・草刈りなどの維持管理費が節減でき、併せて農地の乾田化による、農作業の効率化等、担い手の経営規模拡大促進に向けた生産基盤を整備するとともに、後継者・担い手不足の問題に大きく寄与した。

3 総合評価

(コメント)

本事業によって、農業用排水L=1551.4mの整備を行い、受益面積10haの農地の生産性向上が図られたことにより、農業従事者の維持を図り、定住等の促進に資する農業用排水施設等の機能の確保ができたことから、事業活用活性化計画目標を達成したと評価している。

今後は、農地の乾田化により、農地の生産性、農作業の効率化を向上させ、地区を活性化させる計画である。

4 第三者の意見

(コメント)

本地区では、農業用排水路の整備により、農作業の効率化を行う基盤が形成されたことにより、農業従事者の維持・定着に寄与し、地域の居住環境向上にも貢献したと評価できる。今後は、土地利用率の向上や高収益作物の導入にも取り組むことが期待される。

(九州大学大学院農学研究院 教授 福田 晋)

【記入要領】

- (1) 計画主体コード、計画番号は年度別事業実施計画に記入した番号とすること。
- (2) 「1 事業活用活性化計画目標の達成状況」のコメントには、目標が未達成となった場合は、その理由を記入すること。また、達成状況が低調である場合は実施要綱第8の2の(1)及び(2)に基づき改善計画を作成し、農林水産大臣に提出すること。
- (3) 「2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果」は事業メニュー毎に作成すること。また、「事業の効果」には事業の実施により発現した効果(農山漁村の活性化に関連する効果)を幅広に記入すること。